

出前講座「岩手・宮城内陸地震」

- 開催日時：平成27年9月3日（木）9時00分から13時30分
- 開催場所：あいぽーと、岩手・宮城内陸地震災害現場（市野々原、祭時大橋）
- 参加者：一関市立東山中学校 1年生 55名

国土交通省岩手河川国道事務所では、総合的な学習の一環として出前講座を開催しております。

9月3日（木）防災教育の一環として出前講座を実施し、一関市立東山中学校1年生55名が参加しました。

最初に「あいぽーと」にて、「岩手・宮城内陸地震」でどんな被害があったのか、また自分達が住んでいる一関市東山地域がなぜ度々水害に見舞われるのか、当時の写真や地図を見ながら学習しました。

次にバスに乗って現場を実際に見学。平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」で河道閉塞が発生した市野々原地区をはじめ、落橋した祭時大橋を見学し、被害状況や対策工事について学習しました。

生徒の皆さんからは「市野々原地区以外の天然ダムの復旧状況はどうだったのか」「落橋した祭時大橋はなぜ残したのか」「橋の欠片はどのように持ってきたのか」などの質問があり、とても興味深く学習しているようでした。

また見学を終えて「ハザードマップをよく見て、危険な場所を常に考えていきたい」「水害や自然災害は人間にもとても影響することが分かった。インターネットやテレビの天気情報を見て行動したい」「あいぽーとで水害の事を沢山学んだ。今日の事を覚えておいて、何かあったときは素早く行動することで、大きな被害を防げると思う」との感想をいただきました。

今日の出前講座を通じて、生徒の皆さんは一関地域に7年前とても大きな地震があった事、自分達が住んでいる一関市東山地域も水害に見舞われている事、そして災害から自らの身を守るためにどう行動すべきか学習出来たようでした。



「あいぽーと」で「岩手・宮城内陸地震」の被害状況や、東山地域の過去の水害を学びました。



「市野々原被災地展望広場」を見学し、河道閉塞について学びました。



落橋した「祭時大橋」を見学し、岩手・宮城内陸地震の被害の大きさを実感しました。



祭時温泉「かみくら」の女将さんから、震災当時の貴重な体験談をお話していただきました。